

1 学校教育目標

- 学び合う人
- 思いやる人
- 鍛え合う人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学校との円滑な接続を目指し、9年間を見通した積極的な連携事業を進める学校。 ・学力の向上と生徒一人一人の良さを伸ばす学校。 ・礼節を重んじ、規範意識が高められる学校。 ・保護者や地域との連携した教育活動を推し進める信頼された学校。
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、自ら考えて積極的に学習する生徒。 ・お互いのよさを認め合い、誰とでも助け合う心の優しい生徒。 ・明るく素直で、健康な生徒。 ・目標に向かってチャレンジする生徒。
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の手本となり自分自身を高め、学ぶ楽しさを教える教師。 ・誠実な心と正義感をもって生徒と向き合い、豊かな心や強さ、温かさを伝える教師。 ・保護者や地域とのかかわりを大切にし、協力を惜しまない教師。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉

ここ数年来「文武両道」の精神が伝統として引き継がれ、落ち着いた学習環境と自治的活動が根付いている。生徒は全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組んでいる。生徒会を中心に良き伝統づくりのため努力している。教師は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈前年度の成果〉

- ・令和4年度足立区学力調査の通過率は73.2%（達成目標70%）で昨年度71.3%より上昇した。朝学習や補充教室が生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着に結び付いている。小中連携における研究授業、講習会の取り組みを通し、分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて指導案検討・研究授業を実施し、学習指導の研究を深めることができた。
- ・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価1年94.3%、2年93.3%、3年93.4%、学校全体で93.6%（+1.6）であった。タブレット等ICTを活用した授業を実践する教員が増え、よりわかりやすい授業にするための授業改善が行われている。またAIドリルの活用などを通して学校全体での学力アップを図られている。

〈前年度の課題〉

- ・全体として落ち着いた環境の中で学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いものの、一部学習意欲に欠け学力の定着に課題がある生徒がいる。

- ・不登校傾向の生徒へのきめ細かい指導と保護者・関係機関との連携をさらに推し進め、不登校の改善を図る。
- ・生徒が主体的にものごとに取り組む姿勢や規範意識の育成、基本的生活習慣、学習習慣をしっかりと身につけさせる。
- ・落ち着いた学習環境と安全・安心な学校生活を継続して提供するためのシステムの確認と再構築を引き続き実践していく。
- ・保護者アンケート「教員は生徒との信頼関係を築けるよう努めている」の肯定的評価が76.7%(-5.3)と前年比6%UP、「本校の教育に満足している」では1年85.2%(+1.2)、2年84.7%(+1.7)、3年87.9%(-3.1)と90%を超える頃ができなかった。100%目指してより信頼される学校を目指し組織で取り組む。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中連携の推進	○	○	○	○	○
3	「生きる力」の育成と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査の数値目標達成 分かる授業の実践 (ICT 機器、AI ドリルの活用)		全体 73% 国 73%(+0.4) 数 77(+0.5) 英 73%(+2.6) 年度末1・2年 全体正答率 60%		全体 71.3%(-1.7) 国 73.3%(+0.3) 数 72.9%(-4.1) 英 67.9%(-5.1) 年度末1・2年 全体正答率 64%		全体の通過率は前年度を少し下回ったものの学校全体としての学力の維持ができてい る。また、調査の結果を踏まえた授業改善、 補充の取り組みの成果が年度末の正答率向 上につながっている。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	朝学習	全学年 5教科 (国数英 社理+読 書)	毎日 始業前 10分	【指導体制】 学年教員 【目的・取り組み内容】 基礎的な学力の向上を図る。 単語・文法力(英)・計算力 (数)・漢字の書き取り(国) 【使用教材】AIドリル、自 作教材	各コンテスト	正答率30%未満 の生徒を全体の 10%以下にす る。	1年国語 7.4% 数学 2.1% 英語 7.6% 2年国語 3.4% 数学 7.0% 英語 22.3% 3年国語 3.5% 数学 2.2% 英語 11.0%	全体の30%未満の 生徒は7.7%で目標 を達成している。し かし学年・教科によ りばらつきがあるた め検証し出題内容等 を検討していく。	○
2 継続	放課後補習 教室(抽出)	全学年 3教科 (国数英) 各学年 10名程度	毎日 放課後 15分	【指導体制】 学年教員 【取り組み内容・ねらい・目的】 個別指導による、基本的な学力の 定着。単語・文法力(英)・計算 力(数)・漢字の書き取り(国) 【使用教材】AIドリル、自作教材	区調査再テス ト	対象生徒の80% が正答率を上昇 させる。	1年国語 82.5% 数学 71.8% 英語 76.6% 2年国語 43.0% 数学 94.9% 英語 79.6% 3年国語 53.6% 数学 95.5% 英語 94.7%	全体の上昇率は 76.9%であった。教科 によりばらつきがあ り、今後対象生徒や 取り組み内容を改善 する必要がある。	○
3 継続	放課後補充 教室	全学年 3教科 (国数英 +読書)	毎日 放課後 15分	【指導体制】 全教員 【目的・取り組み内容】 英語:長文問題・英作文等、 数学:文章題等、国語:読 解問題・作文等で応用力を 向上させる。 【使用教材】 各教科で用意する教材、AI ドリル	区調査再テス ト	区調査復習テス トで生徒の50% が正答率を上昇 させる。	1年国語 88.1% 数学 81.7% 英語 92.7% 2年国語 71.9% 数学 83.1% 英語 67.9% 3年国語 77.1% 数学 92.4% 英語 92.0%	全学年全教科で正 答率上昇の目標を達 成することができ た。	◎

4 継続	サマースクール	全学年 5教科 (国数英 社理) 各学年約 30名	夏休み 期間中 の7日間 各日45 分×3	【指導体制】全教員 【目的・取り組み内容】 英、数、国：応用クラスと 基礎クラス(基本的な計算 や英文の理解等)、その他 の教科:当該年度の前半期 の内容でつまずいた内容。 少人数指導。 【使用教材】 各教科で用意するプリン ト教材、AIドリル	事前・事後テ ストの比較	得点が向上した 生徒の割合を 95%にする。	中1勉強合宿通所型 参加者 得点向上100%(事後) 83.3%(3か月後) 75.0%(6か月後)	直後は参加者全員 の得点の上昇がみら れたが3か月後、6 か月後と数値が下が った。定着の持続が 課題である。	○
5 継続	英語表現力 向上活動	全学年 英語授業 総合的な 学習の時 間の発表 に英語表 現を取り 入れる (2, 3 年)	毎授業 10分程 度 9, 10 月	【指導体制】英語科・ALT 【目的・取り組み内容】 Native English Speaker との英会話に慣れさせ、 英語で話すことに興味関 心を持たせる。 【使用教材】 本校独自教材の会話シー ト	定期考査内の リスニングテ スト 年3回の会話 テスト(全学 年) GTEC (2年)	正答率50%以上 の生徒が85%以 上 中級レベル以上 の生徒が70%以 上 CEFR-J A1・3以 上の生徒が50% 以上	正答率50%以上の生 徒が80% 中級レベル以上の生 徒が80% CEFR-J A1・3以上の 生徒が33%以上	リスニングテスト正 答率、CEFR-J A1・3 以上の目標値を超え ることはできなかった ものの、学校全体と しての英語表現活動 への取り組みは充実 して行くことができ た。	○
6 継続	家庭学習の 習慣化	全学年 全教科	定期考 査前の 2週間	【目的・取り組み内容】「学 習の記録」を活用し、各 生徒に家庭学習への意 識を高めさせる。担任が 各生徒の家庭学習状況 を把握し、学年体制で未 提出課題に取り組ませ る。徐々に年間通して行 えるようにしていく。	定期考査時に 課題の提出状 況を確認する	全学年、課題の 提出率を85%以 上にする。	全学年、課題の提出率 を85%	課題の提出率は目 標値とならぶことが できたが、主体的に 家庭学習へ取り組ま せることには課題が 残った。	△

7 継続	キャリア教育 東京Global Gateway (TGG)	第2学年 英語	11月頃	【指導体制】英語科+学年 教員 【目的・取り組み内容】 半日の英会話体験 【使用教材】 TGGオリジナル教材	TGGからの評 価	中級レベル以上 の生徒が80%以 上	中級レベル以上の生 徒が100%	日頃の英語表現活 動の取り組みや明海 大学留学生との交流 活動等を通し、目標 値を超えることがで きた。	◎
8 新規	読書活動の 充実	全学年	朝10分 放課後 15分	朝と放課後の時間を利用 して全校で読書活動の時 間を設ける。(年3回の読 書週間を設定) 昼休みの図書館開放	生徒アンケー ト 図書館年間貸 出冊数	月に2冊以上本 を読む生徒の割合 45%以上(+6.8) 図書館年間貸し出 し冊数6500冊 (昨年度2月末5 551冊)	月に2冊以上本を読む 生徒の割合39.7%(+2.7) 図書館年間貸し出し冊数 3908冊(昨年度3899冊、 1月現在)	全体の貸し出し数 は減少しているもの の、年3回の読書キ ャンプの実施や 図書コラボ給食等学 校全体での読書活動 の充実を図ることが できた。	○

重点的な取組事項－2		小中連携の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・連携をとおした教員の指導力の向上。 ・生徒の学力定着に向けた連携の実施。 ・小中連携による中1ギャップ解消。 		「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価と「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を90%以上にする。	生徒アンケート授業に関する肯定評価 1回目 90.3% 2回目 91.8%	計画通りに小中連携の研修を進めることができ肯定評価も目標値を超えた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

○連携をとおした指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「教員同士の連携」に対する教職員の肯定的な評価を90%以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を90%以上にする。 ・保護者アンケート「教職員は使命感と熱意を持って教育にあたっている」の肯定的な評価を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携活動をとおして学習指導や生活指導について相互理解を深め、児童・生徒の発達段階を踏まえた効果的な指導について検討する。(主体的な学び・言語活動・足立スタンダードに重点を置く。) ・連携推進担当者同士の連絡会を実施し、具体的な連携の調整を図る。 ・児童・生徒についての情報を共有することでより丁寧な個に応じた指導を実施する。 	生徒アンケート授業に関する肯定評価 1回目 90.3% 2回目 91.8% 保護者アンケート肯定評価 89.1%	小中連携教育においては2校の小学校と計画的に連携が図られていて授業改善の効果が現れている。その成果が生徒のアンケートにも反映されている。しかし、保護者のアンケートは若干目標に達することができなかった。	○
○生徒の学力定着に向けた連携の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価を90%以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を90%以上にする。 ・保護者アンケート「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」の肯定的な評価を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な接続を図るため接続のポイントを意識した教科連携を実施する。 ・2小学校と1中学校の3校でそれぞれ1回の指導案検討と研究授業(合同研究会)、3校合同研修会を実施し、分かりやすい授業の実施に向けた研究を進める。 ・子どもに対する理解の仕方や学習目標について各校の教員が共有し、児童・生徒の理解や学習目標の一貫性を図る。 	生徒アンケート授業に関する肯定評価 1回目 90.3% 2回目 91.8% 保護者アンケート肯定評価 91.2%	小中連携教育においては2校の小学校と計画的に連携が図られていて授業改善の効果が現れている。その成果が生徒のアンケートにも反映されている。また保護者アンケートにおいても学力向上への取り組みが評価されている。	◎
○小中連携による中1ギャップ解消への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業に対する教職員の肯定的な評価を90%以上にする。 ・本校へ入学を希望する生徒数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に2校の小学校6年生に中学校体験、中学校紹介を実施する。 ・土曜授業午後に部活動見学会を実施 	中学校体験・中学校紹介 梅島第1小学校 12月15日 島根小学校 1月23日 部活動見学会 10月21日	感染症の流行により小学校6年生の見学会は2校別々での実施となったが、部活動見学会も実施できた。	○

重点的な取組事項－3		「生きる力」の育成と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習環境の中で「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）」の育成 ・あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。 ・「いじめ0」、「不登校0」を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な生活習慣の定着、生徒の安定した学習状況、いじめや暴力のない学校づくり」などの項目について、あてはまる、ややあてはまるの合計を85%以上とし、「本校の教育に満足している」の合計を90%以上にする。 	保護者肯定評価 生活習慣 91.1% 学校づくり 86.7% 本校の教育に満足 93.5%	落ち着いた学習環境がたもたれ基本的な生活習慣の定着が図れていた。しかし学校作りに関しては目標値少し下回った。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○落ち着いた学習環境と「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」「本校の教育に満足している」について、あてはまる・ややあてはまるの合計を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通して、マナー、モラル、ルール遵守の必要性、重要性を説く。 ・各学年、各分掌が一体となり組織的に生活指導に対処していく。 ・学芸発表会、合唱コンクールでの生徒の主体的活動 ・ガイドラインを遵守した部活動運営 ・命の安全教育、性教育 ・昼休みの設定（図書館開放） 	保護者肯定評価 学力向上 91.2% 集団生活 91.1% 本校の教育に満足 93.5%	学校行事においては生徒が主体的に活動し成果を上げることができた。また「命の安全教育」「性教育」など学校全体で取り組むことができた。これらを組織的に取り組み落ち着いた学習環境と生きる力の育成の目標を達成できた。	◎
○あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「生徒の態度や服装はきちんとしている」「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」の項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を90%に近づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体、保護者や地域との連携であいさつ運動を展開していく。 ・教室や各階の展示物、掲示物の工夫を行い感性が磨かれる学習環境や生活環境を作っていく。 ・経済同友会から講師を招聘してキャリア教育を実施する。 ・留学生によるゲストティーチャー授業の実施。 	保護者肯定評価 態度服装 93.6% 言葉使い礼儀 91.8%	あいさつ運動は生徒会の活動として取り組んだ。美術作品を日常的に校内に展示したり、シエナウインドオーケストラの鑑賞教室の実施など感性を磨く取り組み、キャリア教育への取り組み等計画的に実施できた。	◎

<p>○「いじめ0」と「不登校0」を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等の外部評価において、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」という項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を90%以上にする。 	<p>いじめ防止基本方針に基づき、いじめ予防と解消を図る。外部機関と連携しいじめ防止教室を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸調査を基に、SC、特別支援教育コーディネーターを中心に各学年集団、生徒個人の指導の共通理解を図り、指導を深めていく。 	<p>保護者肯定評価 学校づくり 86.7%</p>	<p>ふれあい月間、生徒へのアンケートの実施、日常からの生徒の見守り等、組織的にきめこまかい対応ができているものの、保護者の理解においては、課題がのこる。</p>	<p>○</p>
---------------------------	---	---	--------------------------------	---	----------

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

落ち着いた学習環境の中で、「生きる力」(知・徳・体バランスのとれた力)の育成に心がけ学校経営をすることができた。

生徒は全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組み、生徒会活動をはじめ、委員会や当番活動にも前向きに取り組んでいる。

教師は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。

保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈今年度の成果〉

- ・令和5年度足立区学力調査の通過率は71.3%で達成目標70%を超えることができた。朝学習や補充教室が生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着に結び付いている。小中連携における研究授業の取り組みを通し、分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて指導案検討・研究授業を実施し、学習指導の研究を深めることができた。
- ・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価は1回目が90.3%、2回目が91.3%と高い水準で評価されている。AIドリルやタブレット等ICTを活用した授業を実践する教員が増え、よりわかりやすい授業にするための授業改善が行われている。
- ・今年度から取り組んでいる読書活動の充実では、年3回の読書キャンペーンの実施、月1回の図書コラボ給食、保健委員会と図書委員会のコラボ企画による図書の紹介など、学校全体として読書活動への啓発に努めることができた。

〈今年度の課題〉

- ・全体として落ち着いた環境の中で学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いものの、一部学習意欲に欠け学力の定着に課題がある生徒がいる。
- ・自己肯定感が低い生徒の割合が比較的多く、主体的な学習に取り組むことのできる生徒の割合も比較的小さいことが課題となっている。
- ・不登校傾向の生徒へのきめ細かい指導と保護者・関係機関との連携をさらに推し進め、不登校の改善を図る。
- ・生徒が主体的にものごとに取り組む姿勢や規範意識の育成、基本的生活習慣、学習習慣をしっかりと身につけさせる。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では(1)に記したように落ち着いた学習環境の中で学校生活を送っている。どの授業においても授業規律がたもたれ、集中して授業を受けて

いる生徒が多く、その結果が区学力調査等の結果に表れている。一方で、与えられたことはしっかり取り組んでいるが、主体的に学習に取り組む姿勢は不十分な生徒が多く、自己肯定感を高めることとともに課題となっている。また、ここ数年不登校生徒が増加傾向にあり、より個々の生徒に寄り添った指導が必要になっている。

(3) その他（学校教育活動全般について）

・学芸発表会、芸術鑑賞教室（シエナウインドオーケストラ：東京都「笑顔と学びのプロジェクト」）、美術作品の校舎内展示（通年）などを通し生徒の感性を高める取り組みの充実が図れている。